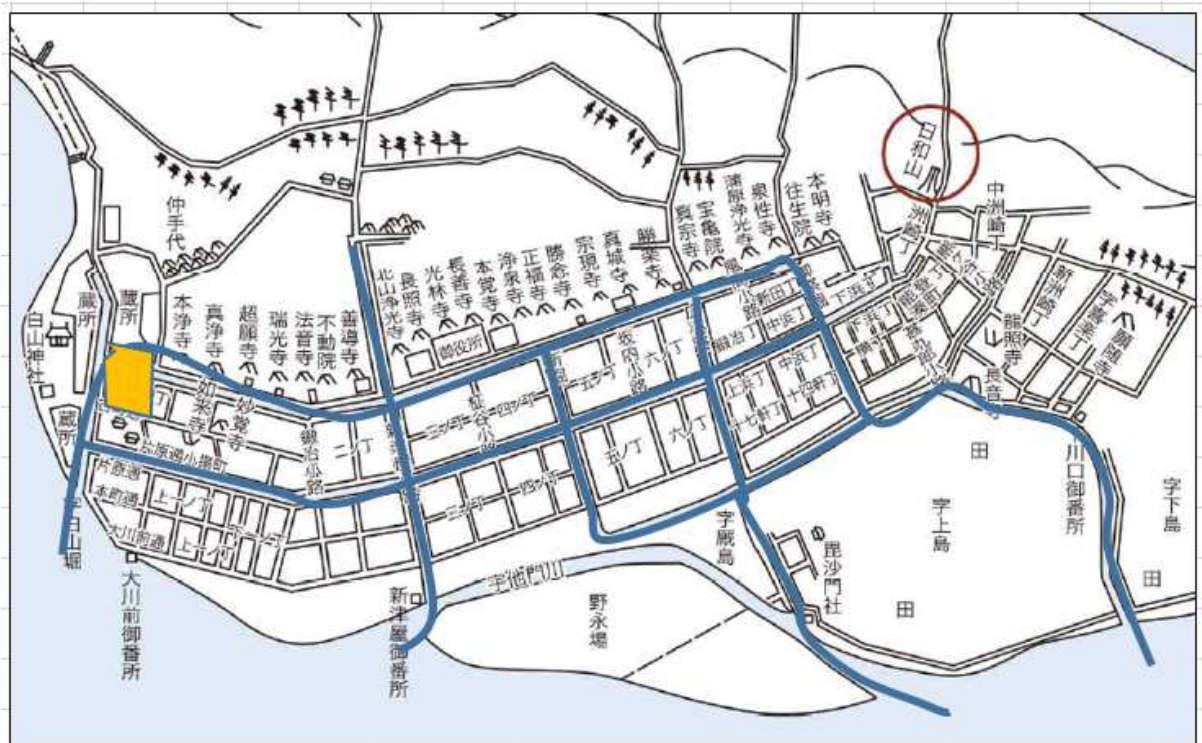
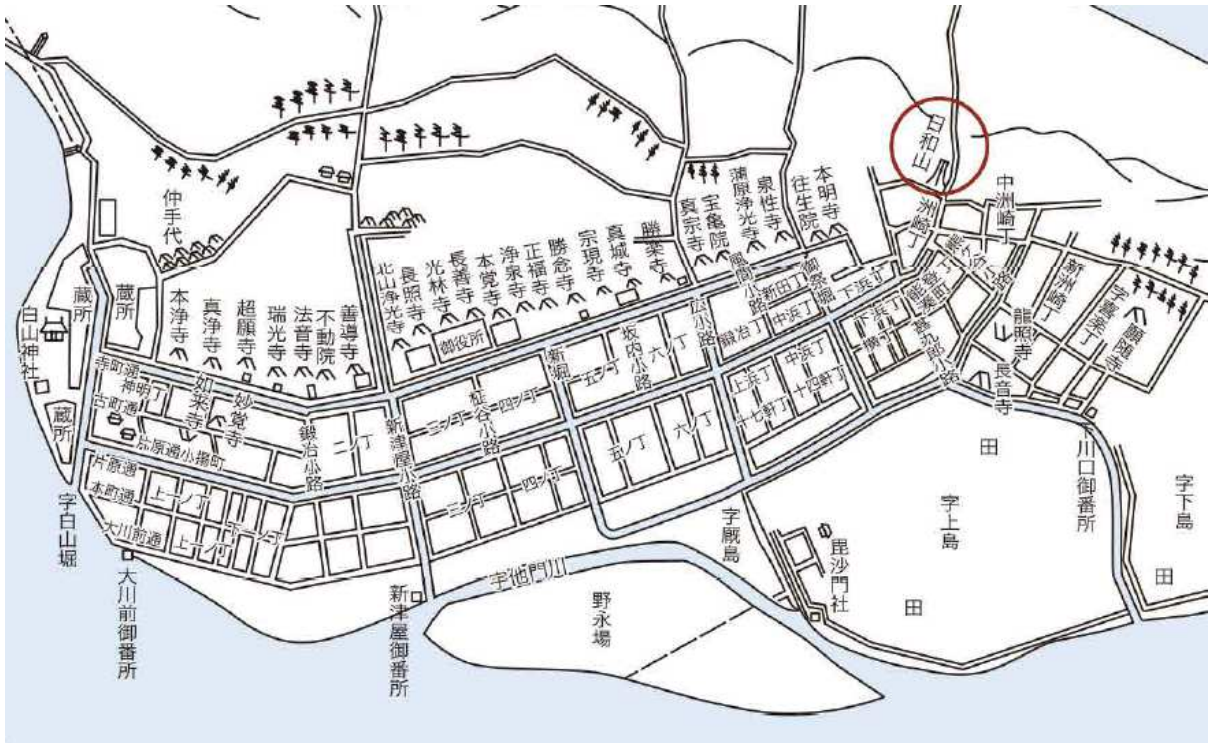


本日の画像ツアー (1/2)

- 1\_1\_1\_江戸末期の新潟町
- 1\_1\_2\_江戸末期の新潟町と掘割
- 1\_2\_江戸末期の新潟上知の訳
- 1\_3\_バードの掘割自作のエッチング
- 1\_4\_当時の新潟町・拡大
- 1\_5\_1\_バードの新潟
- 1\_5\_2\_バードの新潟
- 1\_6\_1\_永山県令時代
- 1\_6\_2\_憲政記念館
- 1\_6\_3\_旧新潟税関



川村修就(かわむら ながたか)と上知(あげち)  
特に天保の改革中に行われた長岡藩の新潟上知が有名。

～必ずしも「薩摩藩の抜け荷」を長岡藩が処理  
できなかった罰ではない。  
当時、ロシア、イギリスなどの国内接近に警戒感を強くし、海防強化を、  
長岡藩だけに押し付けるのは限界だった。

- (1) 引き続き、藩主を老中職として重用した。
- (2) 長岡藩、新発田藩、村上藩に、新潟湊の海防を命じた。
- (3) 新潟上知の処理を、御庭番で砲術に詳しい川村修就をあて、  
新潟上知後の初代新潟奉行として任命し、対外防衛を推し進めた。
- (4) 川村修就は、新潟奉行時代、100年前からの柳を増やし、  
西堀の掘割に柳を植えたとの記録あり。(一説に清の西湖の柳)





イザベラ・バードさんと、当時の新潟町の様子。

一週間の新潟訪問は、最初の日本旅行、1878年(47歳)のとき。

横浜で英語に堪能な18才の日本人青年を雇い、横浜の英国領事から破格の権限を与えられ、日本国内を回る。

東京から日光、五十里越え、横川、大内、会津坂下、津川を經由し、七月はじめに船で新潟入り。一週間を過ごしたが、梅雨時で連日雨。

新潟訪問の目的は、イギリス人医師のキリスト教医療伝道団の活動の調査。大勢の日本人医師が、イギリス人医師に付き添い西洋医術を学んでいた。

当時、新潟は人口五万。越後全体では150万。  
数か月後の天皇行幸に備え、徹底的に掃き清められていたようだが、新潟町の清潔さに感動し、寺町では、美しい荘厳を見て、仏教か信奉されていることは、英国のキリスト教と同じであると、感銘を受ける。  
バードの宿、宣教師の住居は、現在の市役所前あたり。  
西堀通りに英国人医師。  
幕末までは、現在の新潟地裁に長岡藩の米蔵、白山公園に商人の蔵。

新潟は開港場であるが、浚渫に苦しんで海外交易はなく、外国人の居留者も18人と、殆どいなかった。外国商館は二つ。いずれもドイツ。

幕末に長岡藩にガトリングほか、武器の商売をしたスネルもドイツ人。

1878年、新潟の県令は第三代の永山盛輝。

鹿児島県出身。明治8年新潟県令に就任、18年まで勤められた。

永山県令時代に建設された新潟県会議事堂(現・県政記念館)は、当時においても全国屈指のもの。

書のほか歌にも優れた。

旧新潟税関(新潟運上所としてタート)はも明治2(1869)年に完成。  
以後、昭和41(1966)年までの約100年間、税関業務に使用。



